

1. 病棟の具体的な目標と評価

1) 受け持ち患者の看護に責任を持ち、根拠に基づいた看護実践を行う

腎臓内科はHD・PDの知識と技術の向上、腎移植外科は術後管理や退院指導の統一化、泌尿器科は適切なパウチ選択と手技獲得、整形外科は安全安楽な移乗やシーネやギプス固定方法、牽引などの看護技術の向上について主に取り組んだ。勉強会は実技練習や、医師と連携し、より実践的な内容とした。また、PD導入患者や腎移植患者は受け持ち看護師が中心となり、個別的な患者指導が行えるようカンファレンスしている。1ヶ月以上の長期入院患者は、各グループで全例カンファレンスを実施し、看護計画の見直しや治療方針の再確認を行っている。また、受け持ち看護師と退院支援看護師と情報共有を密にするため、地域連携カンファレンスに受け持ち看護師も参加した。看護方式はPNSであり、今年度から平日だけでなく休日にもPNSを導入し、より個別性に応じた看護展開が継続して行えるようになった。

2) 病院運営・経営に参画する

病床利用率 93.4% (前年度 93.4%)、病床稼働率 99.8% (前年度 100.4%)、平均在院日数 15 日 (前年度 14.3 日) であり、大きな変化はなかった。効果的なベッドコントロールを行うために、退院調整を行い、個室希望者をリストアップし有効に有料個室を活用できるようにした。手術を受ける患者は積極的に重症加算病床へ入室できるよう取り決めを行い、スタッフ全員の認識を統一した。緊急入院も多いため、患者数 45 人程度で転棟可能者リストを作成し緊急入院があった際にもすぐ対応できる体制はできている。また、重症度、医療看護必要度は月平均 32.5% であり、30% 以上を達成できた。

3) 患者の視点に立った医療安全・感染対策を推進する

今年度より ImSAFER で毎週インシデントカンファレンスを実施している。インシデント発生時は PNS 年間パートナーと振り返りを行い、各グループの医療安全担当者へ報告する体制とし、個人の傾向の把握や個人に応じた指導を行うことができた。患者 1 名に対する手指消毒剤の使用回数は 1 日あたり前期 4.12 回、後期 5.69 回 (前年度: 前期 3 回、後期 1 日 5 回) となっており、前年度より増えている。個人差もあるため引き続き適切なタイミングで行えるよう周知していく。専門職業人としての自覚を持ち、知識・技術の習得および研鑽に努める

4) 専門職として自己研鑽に努める

延べ 39 名の看護師が院外研修・学会参加している。自己学習については経験年数の浅い看護師の参加率が低いため研修案内を行っていく。各診療科の 4 グループで勉強会を企画、実施し専門領域の知識の確認と習得が出来た。(整形外科 4 回、泌尿器科 7 回、腎移植 3 回、腎臓内科 4 回、実地指導 3 回、急変時対応 2 回)

5) 看護の先輩として学生指導に携わる

CE を中心に、指導を担うスタッフが実習目的・目標を理解し、指導を行なえるよう実習指導要綱について必要なポイントなど情報共有しながら、実習指導を実施した。

新人教育は病棟独自の看護技術チェックリストを作成し、経験値の向上に努めた。また、7A 病棟での新人指導の年間計画を作成し、毎月プリセプターで評価しながら計画的に指導を行えるようにした。

6) 活気ある職場、元気の出る職場作りを推進する

年次休暇の平均取得は 7.4 日/年 (前年度 5.3 日) であった。冬季には冬休みとして全員 5 日の連休が取得

できた。病棟全体の時間外勤務時間は平均 291 時間/月であった。前年度は平均 235 時間/月であり、時間外勤務時間の減少には至らなかった。次年度も引き続きリシャッフルの検討や補完業務の見直しを行い、時間外勤務時間の削減に努めていく。

2. 病床運営状況

表 1 令和元年度 病床運営状況

収容可能 病床数(床)	診療科名	月平均		平均在院 患者数(人)	平均在院 日数(日)	病床 利用率(%)	病床 稼働率(%)
		新入院患者数(人)	退院患者数(人)				
48	外科・腎臓内科・ 泌尿器科・ 整形外科	87.3	94.5	44.8	15.0	93.4	99.8

重症加算病床		有料個室		死亡者数 (人)
病床数 (床)	稼働率(%)	病床数(床)	稼働率(%)	
4	96.1	6	102.1	12

3. 看護体制

表 2 令和元年度 看護体制

配置人数 (人)	看護方式	夜勤体制(準:深)
33	PNS	4:3

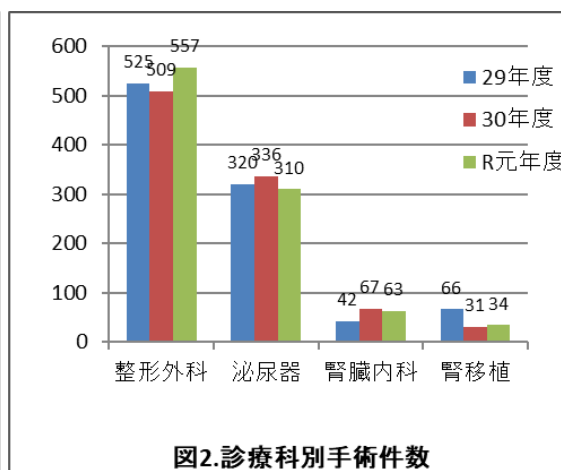
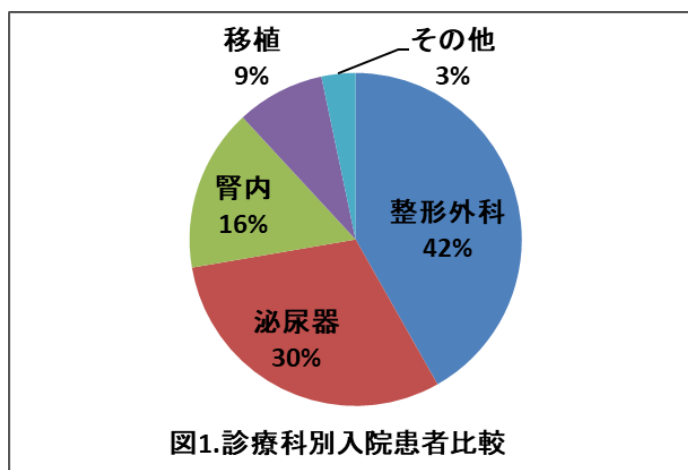
4. 看護統計

1) 重症度、医療・看護必要度

表 3 令和元年度 一般病棟 重症度、医療・看護必要度 I

基準を満たす患者の 割合(%)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
		39.1	32.5	33.8	30.3	33	29.8	33.8	32.2	34.6	30.3	33

2) 部署データ



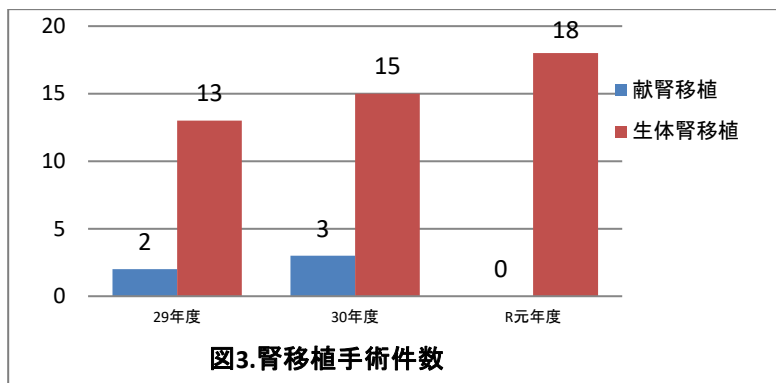


表 4 保健指導

血液透析導入(人)	腹膜透析導入(人)	腹膜透析再導入(人)
35	2	6

表 5 透析導入件数、パス使用件数

透析導入件数(件/年)	血液透析 35、 腹膜透析 2、 腹膜透析再導入 6	
パスの使用件数(件/年)	765	内訳: 泌尿器342、整形243、腎内40、腎移植67、その他73

5. 研究業績

1) 看護研究発表・研究会発表

発表演題名	発表者	学会名	開催地	開催日
大腿骨骨折患者の術後せん妄発症の予防 -統一した看護ケアの介入-	竹本 優奈	第73回国立病院 総合医学会	愛知県	2019年11月9日
新人看護師が捉えたPNSにおける現状 -インタビューを通して明らかになったこと-	村岡 千亜希	院内看護研究発表会	院内	2020年2月8日

2) 講演会・講義・研修会等

講演会・講義・研修会名	講師名	主催者名	開催地	開催日
BLS研修会	丸石千裕	訪問看護ステーション エール	岡山	2019年11月23日